



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

2020年6月14日朝刊

新型コロナ デマ SNS上で飛び交う

「興津の社長が感染したってほんと？ 怖い」。静岡市で初めて感染者が確認された2月末、同市清水区のねじメーカーの男性社長が新型コロナに感染したという偽情報がSNSで流れ、営業自粛に追い込まれるなどの風評被害を受けた。西伊豆地域でも感染者が出るたびに、それは一体誰なのか住民の間で不確実な情報が交錯した。

こうしたデマについて東京大大学院情報学環の関谷直也准教授（災害心理学）は「多くの人々が先行き不安や怒りなど共通の感情を抱いた時に生まれやすい」と解説。新型コロナはワクチンや感染予防研究が無いため、多くの人が罹患を恐れ、ウイルス保持者を特定して避けようとする社会風潮があったとみる。

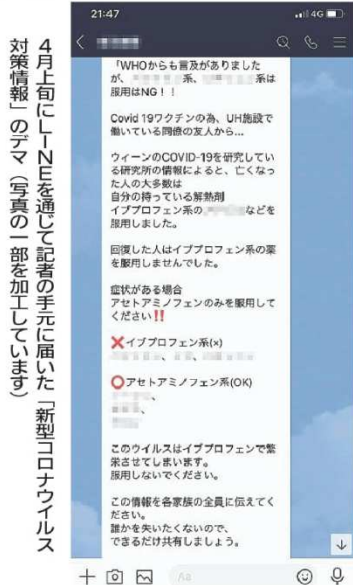
社会不安を解消するには情報公開の透明性が求められる。しかし、行政は感染者情報について個人のプ

「興津の社長が感染したってほんと？ 怖い」。静岡市で初めて感染者が確認された2月末、同市清水区のねじメーカーの男性社長が新型コロナに感染したという偽情報がSNSで流れ、営業自粛に追い込まれるなどの風評被害を受けた。西伊豆地域でも感染者が出るたびに、それは一体誰なのか住民の間で不確実な情報が交錯した。

こうしたデマについて東京大大学院情報学環の関谷直也准教授（災害心理学）は「多くの人々が先行き不安や怒りなど共通の感情を抱いた時に生まれやすい」と解説。新型コロナはワクチンや感染予防研究が無いため、多くの人が罹患を恐れ、ウイルス保持者を特定して避けようとする社会風潮があったとみる。

社会不安を解消するには情報公開の透明性が求められる。しかし、行政は感染者情報について個人のプ

新型コロナウィルスの感染拡大が本格化した2月以降、SNS上などで感染症に関するデマ、流言が飛び交っている。偽の感染者情報や根拠に乏しい感染予防方法が拡散。デマは社会的心理が大きく影響し、緊急時こそ情報の冷静な見極め、行動が欠かせない。



4月上旬にLINEを通じて記者の手に届いた「新型コロナウィルス対策情報」のデマ（写真の一部を加工しています）

求められる力

イバシーを守るため居住地域、年代、性別、行動履歴までの匿名公表を原則とする。当然の配慮であるが、情報の透明性の観点から見た情報源を元にさまざまな臆測がデマに発展したと分析できる。

善意によって伝わるのもデマの特徴だ。SNSや無料通信アプリLINE（ライン）などで「親しい人に教えてあげて」とのメッセージと共に「熱い液体を飲むとコロナウイルスが死ぬ」「〇の薬は症状を悪化させる」との根拠に乏しい「コロナ対策情報」が広がった。厚生労働省が予防効果は見込めないとの見解を示し、後にデマと発覚したケースがあったが、情報を入手した時点では真偽を確かめるのは難しい。コミュニケーション論に詳しい中央文学部の松田美佐教授

は「有益と思う情報を親しい人に共有したい気持ちは理解できるが、安易に情報を広めないことが賢明」と強調する。

つまり、今回のような感染症流行や災害が発生すると、不安感から私たちは安心できる情報や状況を求めようとする。そんな時こそ冷静な情報分析、行動が重要だ。SNSなどの普及によって情報受信の利便性は飛躍し、アクセス方法は多様化した。ほぼ無秩序なネット空間では不正確な情報が氾濫する負の側面も肥大化している。インターネットやSNSのデマや誹謗中傷など情報規制の在り方も大きなテーマだ。

中国に古くから「流言は知者に止まる」という言葉がある。安易に情報を信じない、伝えない判断力が私たちに求められている。（松崎支局・市川幹人）

① SNS上でデマや流言、偽情報が飛び交うのはどのような時に多いのか。また、その理由は何か。

どのような時

()

理由

()

② SNS普及による「負の側面」を、記事から抜き出して書きなさい。

()

③ 中国の言葉「流言は知者に止まる」と同じような内容が書かれている記事中の表現に線を引きなさい。

④ 見出しの口に入る漢字4字を書きなさい。

年 組 名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校～高校／技術家庭、情報、道徳)



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2020年6月14日朝刊

新型コロナデマ SNS上で飛び交う

「興津の社長が感染したってほんと？ 怖い」。静岡市で初めて感染者が確認された2月末、同市清水区のねじメーカーの男性社長が新型コロナに感染したという偽情報がSNSで流れ、営業自粛に追い込まれるなどの風評被害を受けた。西伊豆地域でも感染者が出るたびに、それは一体誰なのか住民の間で不確実な情報が交錯した。

こうしたデマについて東京大学院情報学環の関谷直也准教授（災害心理学）は「多くの人々が先行き不安や怒りなど共通の感情を抱いた時に生まれやすい」と解説。新型コロナはワクチンや感染予防研究が無いため、多くの人々が罹患を恐れ、ウイルス保持者を特定して避けようとする社会風潮があったとみる。

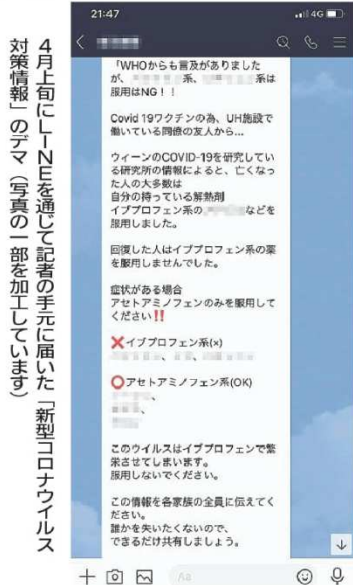
社会不安を解消するには情報公開の透明性が求められる。しかし、行政は感染者情報について個人のプ

「興津の社長が感染したってほんと？ 怖い」。静岡市で初めて感染者が確認された2月末、同市清水区のねじメーカーの男性社長が新型コロナに感染したという偽情報がSNSで流れ、営業自粛に追い込まれるなどの風評被害を受けた。西伊豆地域でも感染者が出るたびに、それは一体誰なのか住民の間で不確実な情報が交錯した。

こうしたデマについて東京大学院情報学環の関谷直也准教授（災害心理学）は「多くの人々が先行き不安や怒りなど共通の感情を抱いた時に生まれやすい」と解説。新型コロナはワクチンや感染予防研究が無いため、多くの人々が罹患を恐れ、ウイルス保持者を特定して避けようとする社会風潮があったとみる。

社会不安を解消するには情報公開の透明性が求められる。しかし、行政は感染者情報について個人のプ

新型コロナウィルスの感染拡大が本格化した2月以降、SNS上などで感染症に関するデマ、流言が飛び交っている。偽の感染者情報や根拠に乏しい感染予防方法が拡散。デマは社会的心理が大きく影響し、緊急時こそ情報の冷静な見極め、行動が欠かせない。



4月上旬にLINEを通じて記者の手に届いた「新型コロナウィルス対策情報」のデマ（写真の一部を加工しています）

求められる情報判断力

イバシーを守るため居住地域、年代、性別、行動履歴までの匿名公表を原則とする。当然の配慮であるが、情報の透明性の観点から見ると曖昧さは残り、限られた情報源を元にさまざまな臆測がデマに発展したと分析できる。

善意によって伝わるのもデマの特徴だ。SNSや無料通信アプリLINE（ライン）などで「親しい人に教えてあげて」とのメッセージと共に「熱い液体を飲むとコロナウイルスが死ぬ」「〇の薬は症状を悪化させる」との根拠に乏しい「コロナ対策情報」が広がった。厚生労働省が予防効果は見込めないとの見解を示し、後にデマと発覚したケースがあったが、情報を入手した時点では真偽を確かめるのは難しい。コミュニケーション論に詳しい中央文学部の松田美佐教授

は「有益と思う情報を親しい人に共有したい気持ちは理解できるが、安易に情報を広めないことが賢明」と強調する。

つまり、今回のような感染症流行や災害が発生すると、不安感から私たちは安心できる情報や状況を求めようとする。そんな時こそ冷静な情報分析、行動が重要だ。SNSなどの普及によって情報送信の利便性は飛躍し、アクセス方法は多様化した。ほぼ無秩序なネット空間では不正確な情報が氾濫する負の側面も肥大化している。インターネットやSNSのデマや誹謗中傷など情報規制の在り方も大きなテーマだ。

中国に古くから「流言は知者に止まる」という言葉がある。安易に情報を信じない、伝えない判断力が私たちに求められる。（松崎支局・市川幹人）

- ① SNS上でデマや流言、偽情報が飛び交うのはどのような時に多いのか。また、その理由は何か。
 どのような時
 （ **多くの人々が先行き不安や怒りなど共通の感情を抱いた時。** ）
 理由
 （ **不安感から安心できる情報や状況を求めようとするから。** ）
- ② SNS普及による「負の側面」を、記事から抜き出して書きなさい。
 （ **（ほぼ無秩序なネット空間では）不正確な情報が氾濫する。** ）
- ③ 中国の言葉「流言は知者に止まる」と同じような内容が書かれている記事中の表現に線を引きなさい。
- ④ 見出しの口に入る漢字4字を書きなさい。

年 組 名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

（中学校～高校／技術家庭、情報、道徳）